



国立大学法人

岩手大学
IWATE UNIVERSITY



令和4年度

岩手大学 教職大学院

大学院教育学研究科
教職実践専攻（専門職学位課程）

高度な専門性と
豊かな人間性・社会性を備えた
力量ある教員を育む大学院



スクールリーダーと 即戦力の新人教員を養成します

岩手大学大学院教育学研究科長 田代 高章



岩手大学大学院教育学研究科(教職大学院)は28年4月に発足し、令和4年3月には5期生16名が修了しました。この間の修了生は80名を超え、修了生は、本学における理論と実践の融合(往還)を通して修得した力量を発揮し、各学校および教育行政の最前線で活躍しています。

本学教職大学院の現職院生は、岩手県教育委員会から2年間研修として派遣され、修了後は管理職等や指導主事として本県教育を牽引するスクールリーダーとなることが期待されています。また、学卒院生は修了後、より高度な実践的指導力を備えた新しい学校づくりの有力な担い手となる新人教員として活躍することが期待されています。

その実現に向けて、専攻共通科目を中心とする授業科目のほか、「専門実習」と「教育実践リフレクション」をカリキュラムに位置づけ、学校現場の課題解決に資する実践的なフィールドでの研究を行っているのが大きな特色です。

現在は新型コロナ対策による制約はありますが、研究スペースである院生室には、各自に専用机が配置され、学年や校種を超え、現職院生・学卒院生ともに、大学院の授業や専門実習および個人研究を補完する学び合いやOJTの場ともなっています。さらに、学卒院生に対する独自の奨学金貸与制度も完備しています。

本学教職大学院は、岩手県教育委員会および盛岡市内を中心とする各学校等との連携・協力の下に、これからの学校教育の充実・発展に大きく貢献できる力量の高い教員の育成に努めています。

専門的・実践的力量を備えた 教員養成を

岩手県教育委員会教育長 佐藤 博



今年度、県教育委員会から岩手大学教職大学院への派遣研修は7年目を迎えます。令和3年度の修了生(第5期生)16名を含め、これまでに80名以上の皆さんがそれぞれの勤務地において、学修の成果を大いに発揮しています。

第5期生の現職教員の皆さんは、副校長や研修指導主事、各地区の中核となる学校の教諭として、この4月から新たなスタートを切って活躍しています。学卒院生の皆さんも、連携協力校を始めとする小中学校や県立学校等において、2年間の専門的な学びを生かし、意欲的に実践しています。

コロナ禍での学校生活は3年目を迎えますが、学校教育においては、感染症対策を講じつつ、児童生徒一人ひとりの確かな学力を育成するため、ICTを活用した効果的な学習指導や、いじめや不登校など複雑化・深刻化する教育課題への対応などに取り組んでいかなければなりません。このような中、教職大学院における理論と実践の融合を図った研究は、今後ますます重要性を増し、岩手の教育の充実に結びついていくものと確信しています。

県教育委員会としても、引き続き、管理職や中核的なリーダー教員、授業力を磨くスーパー教員をめざす、多様な人材の派遣に努めるとともに、実務家教員の人事交流や、専門実習等学修環境のサポートなど、教職大学院との一層の連携・協働を図って参ります。



リフレクションの授業



盛岡市立高校での実習



沿岸南部教育事務所管内での実習

教職大学院とは？

本学では「教育学研究科教職実践専攻」が教職大学院です。

教職大学院は、近年、学校教育の課題が多様化、複雑化する状況の中で、高い専門性と実践力を身に付けた高度専門職業人としての教員養成に特化した専門職大学院です。これまでの教育系大学院(修士課程)との違いは、専門実習、模擬授業、事例研究など実践的な教育内容が充実し、理論と実践を融合したカリキュラムとなっているところです。

●教育学研究科(教職実践専攻)の入学定員等

入学定員 16名(うち、岩手県教育委員会から派遣される現職教員は8名)

●学位名称、標準修了年限等

標準修了年限は2年で、修了者には教職修士(専門職)の学位が授与されます。また、教育職員一種免許状の保持者には専修免許状が授与されます。

人材養成像

学校教育に関する「理論と実践の融合」の理想を掲げて、教職としての高度な専門的・実践的力量を備えた高度専門職業人としての教員を養成します。

具体的には、学校教育をリードする専門的力量を備えた管理職及びミドルリーダー教員を養成するとともに、新しい学校づくりの有力な担い手となる新人教員を養成します。



学校マネジメント力開発プログラム

現職院生 小原 義幸



まなびフェストの作成や学校評価の進め方、復興教育推進に向けた校内研修ツールの作成等、様々な授業で今日の教育課題に対応した実践力の育成に努めてきた1年間でした。特に、経験も校種も異なる

現職院生や学卒院生との対話は、新たな物事の見方や捉え方、考え方等に気づかされ、非常に刺激を受けるとともに、自らの成長の一助となっています。この教職大学院での学びを、今後の学校現場で活かしてしていくことができるよう、更に学び続けます。

授業力開発プログラム

現職院生 大谷 寛子



これまでは自分が所属する学校や学級といったミクロな視点で教育に携わってきた私にとって、教職大学院での学びは、岩手の教育についてマクロな視点を与えてくれる機会となりました。また、講義や実習等を通して、他校種の現職院生や学卒院生と意見を交流することで、自分の教育について持っていた枠組みを大きく広げられたことも貴重な経験でした。1年間の学びの中で課題意識を抱いたことを研究テーマとし、有効だと感じた手だての検証を行いながら授業力の向上を目指し、岩手の子どもたちの未来につなげていきたいと思っています。

1年間の学びの中で課題意識を抱いたことを研究テーマとし、有効だと感じた手だての検証を行いながら授業力の向上を目指し、岩手の子どもたちの未来につなげていきたいと思っています。

授業力開発プログラム

学卒院生 本宮 綾華



教育や学校現場をよく知る教授、経験豊富な現職院生の先生方、私とは異なる視点をもつ学卒院生など、多様な視点・経験・考えをもつ人々と、校種、教科や世代を越えて共に学んだり、協議できたことで、視野が広がったと感じる1年でした。新たに得られ

た知識や視点はもちろん、たくさんの人たちと協議することで身に付けた、学びを整理したり深めたりするサイクルを今後も活かし、更に学びを深めていきたいです。

授業力開発プログラム

学卒院生 近藤 開人



教職大学院の魅力の一つとして、多様性が挙げられます。教科や校種の違いを生かし多様な視点で学ぶことが可能なのは教職大学院の強みだと思います。「省察」をキーワードとして、学んだことを俯瞰し振り返ることで新たな学びが得られる環境が整って

います。授業実践はもとより学校経営や子ども支援に視野を広げ多面的・多角的に学んだ1年でした。学修したことを学校現場に還元できるような日々、学びを深めていきたいと考えています。

授業力開発プログラム

学卒院生 本宮 大千



教職大学院に入学して1年が経ちました。はじめは慣れていない環境ということもあり不安な気持ちでいっぱいでしたが、現在は講義や実習を通して、学卒院生や現職院生の先生方と学びを深め、充実した日々を送っています。今年度の目標は、様々なこと

に挑戦し、より一層視野を広げていくことです。具体的に、社会教育について学びを深めたいと思っています。ともに高め合える仲間や手厚くご指導くださる先生方に感謝し、学び続けていきます。

授業力開発プログラム

学卒院生 伊藤 玲杏



「今の自分は先生になる覚悟がない」「先生になるまでの時間が欲しい」生半かな気持ちで入学し、早1年が経ちました。講義やゼミでの学び、連携協力校で過ごす時間、世代や校種を超えた仲間との対話、この1年は毎日が刺激的でした。同時に教師として自分が何を大切にしたいか、自分の軸は何かを考え、覚悟を決めた1年目でした。2年目は授業力向上をテーマとして授業実践と省察を重ねます。そして教職大学院で出会った人とのつながりに感謝し、学び続けます。

2年目は授業力向上をテーマとして授業実践と省察を重ねます。そして教職大学院で出会った人とのつながりに感謝し、学び続けます。

特別支援教育力開発プログラム

現職院生 菅原 裕子



入学当初は、新たな知識や考え方や講義内容に圧倒され自分の無知を痛感する日々でした。教職大学院の魅力は、学卒院生と現職院生が同じ空間で学べることだと思います。講義やグループワーク等で、学卒院生の柔軟な考えやアイディアに触れ、新たな

気づきや発想を得たり、他校種の現職院生の経験を活かした授業実践や教材から特別支援にも通じる視点を学んだり、気付きを共有し深めていくことが今の自分の力となっています。

子ども支援力開発プログラム

現職院生 佐々木啓太



教育相談や学校カウンセリング等の講義では、具体的な事例を挙げながら、専門性の高い学びができていると実感しています。専門実習では、教育支援員の体験実習から子ども支援に係る諸要因を理解し、院生同士が「協同的な学び」を通して有効な支援法を学び合えることも、この大学院の魅力です。生活・教育環境が大きく変化する中、子ども達の抱える不安や悩みは、私たちが考える以上に複雑だと感じています。子ども一人ひとりが安心して過ごせる支援を行うために学校や教師はどうあるべきかを考えを深め、子どもたちの力になりたいです。

子ども達の抱える不安や悩みは、私たちが考える以上に複雑だと感じています。子ども一人ひとりが安心して過ごせる支援を行うために学校や教師はどうあるべきかを考えを深め、子どもたちの力になりたいです。

≫ カリキュラムについて

≫ 4つのプログラム制 学修ニーズに応じて以下のプログラムを選択します。

1 学校マネジメント力開発プログラム(現職院生のみ対象)

学校経営と組織マネジメントに関する高度な専門的力量の修得により、特色ある学校づくりをリードする人材(校長、副校長、主幹教諭及び指導主事等)を育成する。

2 授業力開発プログラム

教科等の指導を通して子どもたちに確かな学力形成を保障することができ、同時に地域における教科等の研修リーダーとしての役割も果たすことができる高度な専門的力量を備えた人材を育成する。

3 子ども支援力開発プログラム

いじめや不登校など、子どもたちの生活上・発達上の諸課題を的確に把握し、適切な支援ができる高度な専門的力量を備えた人材を育成する。

4 特別支援教育力開発プログラム

特別支援学校及び通常学校における特別支援教育を推進できる高度な専門的力量を備えた人材を育成する。

専攻共通科目(必修)

- ① 特色あるカリキュラムづくりの理論と実際
- ② 学習指導要領とカリキュラム開発
- ③ 学力の向上と学習意欲
- ④ ICT 活用教育の実践と課題
- ⑤ 学校カウンセリングの理論と実践
- ⑥ 通常学級における特別支援教育の実践と課題
- ⑦ 心理教育的援助サービスの理論と実践
- ⑧ 学校経営の実践と課題
- ⑨ 岩手の教育課題
- ⑩ 専門職としての教員の在り方とその力量形成

選択科目

学校マネジメント力開発プログラム

- ① 学校マネジメントの理論と実践
- ② いわたの復興教育の実践と課題 など5科目

授業力開発プログラム

- ① 教科の指導と評価の実践研究
- ② 授業の構想と教材研究 など15科目

子ども支援力開発プログラム

- ① 子ども支援のための学校臨床心理学
- ② 発達援助の理論と実践 など6科目

特別支援教育力開発プログラム

- ① 特別支援学校の実践力I
- ② 通常学級における特別支援教育 など9科目

実習科目(必修)

学卒院生は、学部段階の基礎的・基本的な教育実習を踏まえ、現職院生では、教職経験を踏まえ、教科等の学習指導、生徒指導、学級・学校経営に関する高度で実践的な指導力の育成を目的とします。連携協力校、教育委員会、総合教育センター等で実施します。

リフレクション科目(必修)

学校現場での実習で得られる学校実践知を教育理論知と融合させて、教育課題の解決に資する実践的力量を育成するために、2年間を通しての必修科目として配置する科目です。

≫ 履修スケジュール

1 年 次													
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
専攻共通科目(6科目・12単位)					専攻共通科目(4科目・8単位)								
プログラム別選択科目(8科目開講)					プログラム別選択科目(12科目開講)								
特別支援教育力開発 プログラム履修者は、 特別支援教育力開発力開発実習 のみを行います。					特別支援教育力開発実習Ⅰ (学校マネジメント力・授業力開発実習) (4W)※附属特支			授業力・子ども支援力・ 学校マネジメント力開発実習 (計160H)※附属校		教育実践 研究 中間発表会			
教育実践リフレクションⅠ						教育実践リフレクションⅡ							
授業力開発基礎演習 (計10H)		子ども支援力開発基礎演習 (計10H)		学校マネジメント力開発基礎演習 (計10H)									
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
専攻共通科目(6科目・12単位)					専攻共通科目(4科目・8単位)								
プログラム別選択科目(8科目開講)					プログラム別選択科目(12科目開講)								
特別支援教育力開発 プログラム履修者は、 特別支援教育力開発力開発実習と 学校マネジメント力開発実習 を行います。					学校マネジメント力開発実習 (計40H) ※県教委及び総合 教育センター等		子ども支援力開発実習 (計60H) ※附属校で実施			教育実践 研究 中間発表会			
					特別支援 教育力開発実習Ⅱ (授業力開発実習)(2W) ※附属特支								
教育実践リフレクションⅠ						教育実践リフレクションⅡ							



時間割例(授業力開発プログラム選択・学卒院生の場合)

専攻共通科目 選択科目

[1年次前期] 学修導入期・研究課題設定期

曜日	1	2	3	4
月		学力の向上と学習意欲	学校マネジメントの理論と実践	特色あるカリキュラムづくりの理論と実践
火	専門職としての教員の在り方とその力量形成	学校カウンセリングの理論と実践	小学校英語の実践と課題	
水	岩手の教育課題	教科の指導と評価の実践研究		心理教育的援助サービスの理論と実践
木				
金	教育実践リフレクションⅠ ①学校マネジメント力開発基礎演習 ②授業力開発基礎演習 ③子ども支援力開発基礎演習		木曜日は配属校で実践実習をします。	

[1年次後期] 学修展開期・研究課題探究期

曜日	1	2	3	4
月	通常学級における特別支援教育の実践と課題	ICT活用教育の実践と課題		授業の構想と教材研究
火	学習指導要領とカリキュラム開発	社会科教育の実践と課題		
水	学校経営の実践と課題	英語科教育の実践と課題	いわての復興教育の実践と課題	
木	総合実習 (①学校マネジメント力開発実習 ②授業力開発実習 ③子ども支援力開発実習)			
金	教育実践リフレクションⅡ			

[2年次前期] 学修深化期・研究課題深化期

曜日	1	2	3	4
月				
火		算数・数学科教育の実践と課題		
水			道徳教育の実践と課題	
木	学校マネジメント力開発実習(4月、9月)、授業力・子ども支援力開発実習(6月)			
金	教育実践リフレクションⅢ			

[2年次後期] 学修完結期・研究課題総括期

曜日	1	2	3	4
月		生活科・総合学習の実践と課題		
火		家庭科教育の実践と課題		
水				
木	授業力・子ども支援力開発実習(11月)			
金	教育実践リフレクションⅣ			

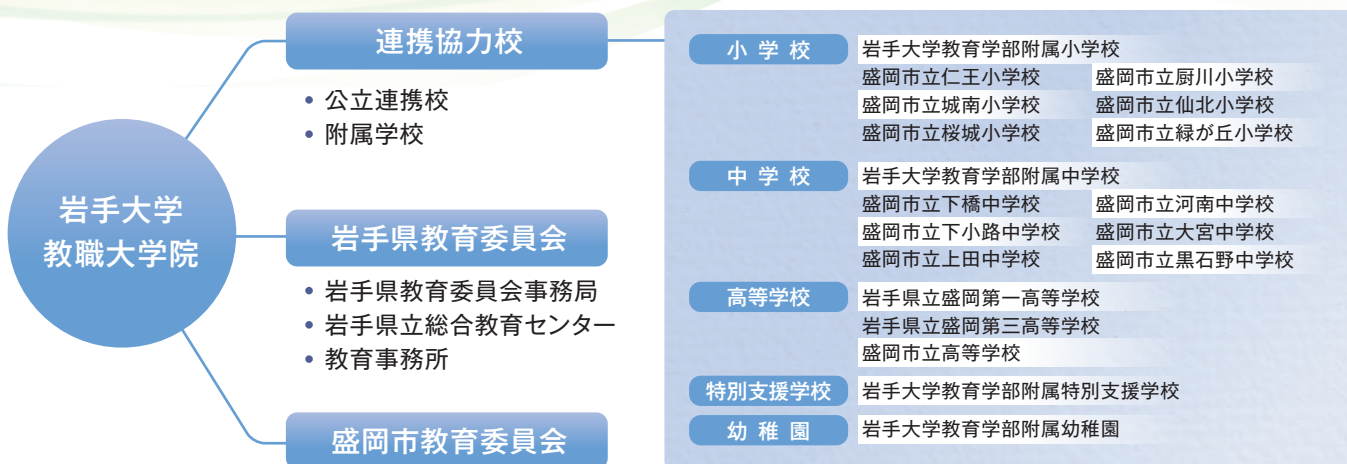
岩手大学教職大学院 修了要件単位表	専攻共通科目 (必修)	選択科目			実習科目 (必修)	リフレクション科目 (必修)	計
		プログラム別必修	プログラム別選択	科目選択			
	20	4	4	6	10	4	48



2年次

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プログラム別選択科目(10科目開講)						プログラム別選択科目(5科目開講)					
学校 マネジメント力 開発実習 (計40H) ※公立連携校		授業力・ 子ども支援力 開発実習 (計80H) ※公立連携校			学校 マネジメント力 開発実習 (計40H) ※公立連携校		授業力・ 子ども支援力 開発実習 (計80H) ※公立連携校				
			教育実践 研究 中間発表会		特別支援教育力開発実習Ⅰ (子ども支援力開発実習)(6W) ※附属特支(一部公立連携校)					教育実践 研究 発表会	
教育実践リフレクションⅢ						教育実践リフレクションⅣ					
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プログラム別選択科目(10科目開講)						プログラム別選択科目(5科目開講)					
学校 マネジメント力 開発実習 (計40H) ※県教委		授業力 開発実習 (計80H) ※公立連携校			学校 マネジメント力 開発実習 (計40H) ※教育事務所等		子ども 支援力 開発実習 (計60H) ※附属校				
			教育実践 研究 中間発表会		特別支援教育力開発実習Ⅱ (子ども支援力開発実習)(5W) ※附属特支(一部公立校)					教育実践 研究 発表会	
教育実践リフレクションⅢ						教育実践リフレクションⅣ					

>> 専門実習について



Q 学校マネジメント力開発実習では、
どんなことをするの？

A 学校経営や教育行政にかかわる実際的な業務内容を実習します。学卒院生は、連携協力校での校務分掌を実習内容に含みます。現職院生は、教育委員会や教育センターでの事務局業務や研修の運営業務などを実習内容に含みます。



緑が丘小学校

Q 子ども支援力開発実習では、
どんなことをするの？

A 教科指導以外の教育活動（学級経営、進路指導、教育相談等）を実習します。児童生徒の状態を把握し、その課題解決を目指した具体かつ有効な支援方法を開発、検証します。



下橋中学校

Q 授業力開発実習では、
どんなことをするの？

A 授業づくりを実習します。単元の指導計画を立案し、授業実践とその評価まで行います。その中で具体的かつ有効な授業方法を開発、検証します。



厨川小学校

Q 特別支援教育力開発実習では、
どんなことをするの？

A 特別支援学校における授業づくりはもちろんのこと、教科指導以外の教育活動、通常学級への巡回相談等を実習します。その中で、具体的かつ有効な支援方法を開発、検証します。



附属特別支援学校

>> 教育実践研究テーマの例

学校マネジメント力開発プログラム

- 外部機関・外部組織との連携を図るための校内組織体制の在り方
ー教育活動を充実するための現状と課題の把握ー
- 中学校における業務改善を図るための手立て
ー管理職や教員の認識の実態を踏まえた業務改善への提案ー
- 高等学校における学校規模に応じた組織力向上の在り方
ー小規模校での内的・外的資源を生かした組織的取組の手立てー

子ども支援力開発プログラム

- 小学校における情報モラル教育の充実のための指導の在り方

授業力開発プログラム

- 小学校における「考え、議論する」道徳授業の実現に向けて
ー教材の有効的活用の視点からー
- 小学校外国語科における自由記述の振り返りの有効性の検討
ーその場に応じたやり取りができ、自己効力感を高める授業づくりー
- 中学校国語科における表現力を育成するための地域教材の開発
ー「遠野物語」を用いてー

特別支援教育力開発プログラム

- 特別支援学校における「校内初任者研修」の実施内容及び方法の開発
ー内容としての育成指標と方法としての省察を導入してー

>> 修了生の動向

>> 修了生インタビュー



釜石市立釜石中学校 副校長 佐々木良一

4月から釜石市立釜石中学校にお世話になっております。釜石中学校は釜石第一中学校、釜石第二中学校、小佐野中学校の3校が統合した学校で、17年目を迎えました。釜石市では最も規模の大きな学校で、ICT設備も充実し、地域の方々も協力的で教育環境の整った学校です。教職大学院では、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校そして学卒院生と様々な学校種、世代の方々と講義や実習を通して触れあえたことで、多くの「学び」を得ることができました。また専門性に優れ、実務経験の豊富な教授陣から受けた薫陶はこれからの教員生活に大きな糧となりました。2年間、教職大学院で学んだ知見を生徒に還元できるよう、日々努力を積み重ねていきます。



岩手県立盛岡聴覚支援学校 教諭 熊谷美智子

4月から、12年ぶり二度目の盛岡聴覚支援学校勤務となりました。校舎内外の様子は12年前と変わっていませんが、幼児児童生徒の実態や使用している機器（補聴器・人工内耳・補聴援助システム等）は大きく変わっており、子どもたちとのかわりを通して一つ一つ学んでいます。また、学校全体として、一人ひとりの実態に応じたコミュニケーション方法を検討・工夫し、子どもたちにとって「分かりやすい」授業を目指して日々取り組んでいます。今回、教員人生初の中学部配属となり、中学生段階での「学び」のあり方やその内容はどうか等様々なことを考えるとき、教職大学院の講義や専門実習の中で学び得たことが自分自身の糧となっています。これからも大学院での2年間の学びを活かしながら、目の前の子どもたちと共に「学び続けて」いきます。



岩手県立総合教育センター 研修指導主事 阿部 尚史

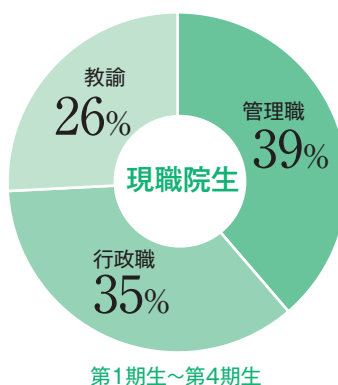
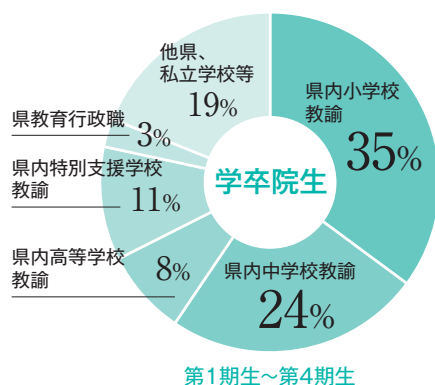
4月から総合教育センターで勤務しており、学校・教育委員会と連携を図りながら、業務を進めています。「いわて県民計画」、「岩手県教育振興計画」、「学校教育指導指針」を拠り所とし、皆で共通認識を持って業務に当たる場面が多く、大学院での学びが自分を助けてくれていると日々感じています。また、総合教育センターは小・中・高・特支の職員が協力しながら業務を行っており、教職大学院での異校種の現職院生・学卒院生との関わりが大きな経験になりました。現在、緊急事態宣言中の研修は遠隔での開催と定められていますが、大学院で遠隔と対面のハイブリットで研究発表会の運営を行った経験も生かされています。これからも人とのつながり・関わりを大切に、教職大学院で学んだことを還元していきたいと思っています。



盛岡市立大宮中学校 教諭 佐々木龍己

教員生活が始まり、大学院の2年間を通して学んだことがフルに活用される毎日をおくっています。大学院の時に、現場の問題点や課題を事前に学び、その対処を学び、考えておいたおかげで、ある程度の心の余裕をもって日々の勤務ができています。大学院に入って一番良かったことは、私を気にかけてくれる優しい人たちと出会い、人付き合いに積極的ではなく、大学院に入る前は教員に適さないのではと考えていた自分を見つめ直す機会を得たことです。大学院は大学と違い、小・中・高の教室に近い空間です。同じメンバーで概ね同じ授業を受けるので、自然と友交を深めることができます。一言で言うのなら、大学院は温かい空間だということです。教員になる前に大学院で学べたことを、私は幸運に思います。

>> 修了生進路 (令和4年4月現在)



学卒院生

第5期生

- 盛岡市立城南小学校教諭
- 福島県天栄村立広戸小学校教諭
- 盛岡市立大宮中学校教諭
- 岩手県立盛岡工業高等学校教諭
- 岩手県立花巻南高等学校教諭
- 岩手県立盛岡峰南高等支援学校教諭
- 盛岡中央高等学校常勤講師(2名)

現職院生

第5期生

- 盛岡市立仁王小学校教諭
- 花巻市立花巻小学校教諭
- 久慈市立夏井小学校副校長
- 一戸町立奥中山小学校教諭
- 奥州市立水沢中学校教諭
- 釜石市立釜石中学校副校長
- 岩手県立盛岡聴覚支援学校教諭
- 岩手県立総合教育センター研修指導主事

>> 在籍者数

(令和4年4月現在)

入学年度	プログラム	学卒院生	現職院生	合計
令和3年度	学校マネジメント力開発		3	3
	授業力開発	9	3	12
	子ども支援力開発	0	1	1
	特別支援教育力開発	0	1	1
	小計	9	8	17
令和4年度	学校マネジメント力開発		3	3
	授業力開発	4	3	7
	子ども支援力開発	0	1	1
	特別支援教育力開発	1	1	2
	小計	5	8	13
	合計	14	16	30

>> 専任教員

研究者教員

田代高章
立花正男
鈴木久米男
山本奨
土屋直人
清水将
室井麗子
佐々木全

実務家教員

加藤孔子
佐藤進
川上圭一
田村忠
佐藤信
中村宗宏
坂本有希

>> 学修支援Q&A

Q1 どんな施設で学修するのですか？

教育学研究科棟という教職大学院専用の施設があります。この中の「院生室」では、一人一台のパソコンが貸与、無線LANが完備されています。「演習室」では、電子黒板等のICT機器が配備され、いつでも利活用できます。

Q2 教員採用試験での特例措置とは、どのようなものですか？

岩手県の教員採用試験に合格した上で、教職大学院に進学した学卒院生は、大学院修了までの期間(最大2年間)、名簿記載期間を延長することができます。なお、合格した出願区分の学校・教科等の専修免許を取得することが条件です。

Q3 奨学金制度はありますか？

学卒院生を対象とした本学教職大学院独自の貸与制度があります。岩手県の教員に採用され、5年間勤務すれば貸与された奨学金は返還免除となります。

Q4 授業の特色にはどのようなことがありますか？

「理論と実践の融合」を目指し、理論面を研究者教員が、実践面を実務家教員がそれぞれ担当します。多くの授業は、研究者教員と実務家教員のチームティーチングで、演習を重視して実施します。また、授業や専門実習では、現職院生と学卒院生が協働・交流し、学び合います。

Q5 どのような指導体制ですか？

各プログラムを専門とする研究者教員8名と、小・中・高・特支学校の校長等の実務経験のある実務家教員7名が中心となり指導します。また、これに加えて教育学部所属の20名をこえる研究者教員が学修をサポートします。

Q6 教育実践研究報告書とは何ですか？

院生個人が、学校現場に貢献する教育実践のテーマを定め、その実践を理論的に検討し、報告書を執筆します。その内容に応じて、研究者教員と実務家教員がチームでサポートします。

Q7 学卒院生が修了後に教員になったとき、初任者研修はどうなりますか？

岩手県内の公立学校では、教職大学院での学修内容が考慮されるため、校内の初任者研修において、通常は150時間のところが、75時間に軽減されます。

Q8 学卒院生が修了後に教員になったとき、初任給はどうなりますか？

「教職修士(専門職)」に対する優遇がなされています。具体的には、岩手県採用の初任給は、学部卒業者が216,532円ですが、大学院・教職大学院修了者は、238,668円です。

Q9 修了後、教職大学院とのかかわりがありますか？

教職大学院の同窓会があり、親睦を深めたり実践研究を交流したりすることができます。また、教職大学院と連携・協働して、教育実践研究や職務に取り組む修了生もいます。

教育学研究科棟（教職大学院）



交通案内(盛岡駅から)

■ バス利用

盛岡駅前東口バスターミナル11番のりば

岩手県交通バス 駅上田線
乗車-「松園バスターミナル行き」
下車-「岩手大学前」

岩手県交通バス 駅桜台団地線
乗車-「桜台団地行き」
下車-「岩手大学前」

■ タクシー利用 盛岡駅から約2km 約10分

■ 徒歩 盛岡駅から約25分



岩手大学 教職大学院



〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号
TEL.019-621-6840 FAX.019-621-6841
E-mail emaster@iwate-u.ac.jp
URL <https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

岩手大学 教育学部

TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail edujiim@iwate-u.ac.jp



この冊子は環境に配慮した
用紙を使用しています。